

〈動向〉

フェスティバルからソーシャルアクションへ： 第5回関学レインボーウィークを振り返って

武田 丈・飯塚 諒

5年目を迎えた関学レインボーウィーク（以下、KGRW）は、「私が私のままでいられる関学へ！ーキャンパスに集う一人ひとりの個性や特性が尊重される関西学院を目指して、できることを一緒に考えよう！」をテーマとし、西宮上ヶ原キャンパスと西宮聖和キャンパスでは2017年5月15日（月）から19日（金）まで、神戸三田キャンパスでは5月22日（月）から26日（金）に開催された。本稿ではまず初めに2017年度のウィークをプログラムごとに振り返る。次にKGRWのソーシャルアクションとしての活動に注目し、フェスティバルとしての意味合いが強かったKGRWが次第にソーシャルアクションに重きを置くようになった経過を説明する。そして、開催5年が経過して次のステージに突入したKGRWの目指すべき方向性について議論する。

1. KGRW2017のプログラム内容

(1) オープニングイベント

「より多くの学生にKGRWのことを知ってもらおう、その趣旨を理解してもらおう」ということを目指して、昨年度より学生に積極的にかかわってもらっているオープニングイベントを、西宮上ヶ原キャンパスでは初日にあたる5月15日（月）の昼休みに開催した。司会や設営を総務放送局が担当し、ステージの進行もクレセントパーティをはじめとした有志がつとめるなど、今年度も学生を中心とした形で、中央芝生で開催された。晴天に恵まれ、200名近くの参加者が集まったイベントは、村田学

長および田淵院長による開会の挨拶からスタートし、学生主体のライブパフォーマンスに合わせて、聴衆者たちの持つレインボーフラッグがはためいていた。またイベントの後半には、ウィークに先駆けてWeb上で収集した「セクシュアリティに関してキャンパスで感じたポジティブおよびネガティブな想い、また関学レインボーウィークに対するポジティブおよびネガティブな想い」を、ボランティア学生が朗読した。その中には、次のようなメッセージがあった。

関学ではこのレインボーウィークをはじめとして多様なジェンダーやセクシュアリティの人々の人権を尊重した活動がされていると思います。例えば多目的トイレ／ジェンダーレストイレがあったり学生証の通称名の使用を認めてくれるところなどです。これらの活動は本来はどの大学、どの学校、日本全体で認められていくべきだと思います。なぜならジェンダーやセクシュアリティは人の数だけある多様なものだし、それらは人々のパーソナリティを形成しているものだからです。日本が早くこのことに気づいて、よりよい社会へなっていくことを期待しています。みなさん、関学レインボーウィークを楽しんでくださいな。

卒業生です。私自身は学部の授業を通してジェンダーやセクシュアリティについて学ぶようになりました。この方面に関して私自身が知識不足で

あることは否めないし、想像してみることでしかLGBTQの方々を理解することができないのが現状です。このような活動を通して、また関学で過ごす中で、一人一人が自分自身を理解して受け入れて自負心をもってもらえるようになればいいな、と思います。

自分と周囲とのズレを感じ、持ち続ける際、“社会の受け皿”が必要であると痛感しました。関学レインボーウィークも大学をあげて続けてほしいなと思います。学内のみならず、会社や学校、街で、広まっていきますようお願いしています。

(2) パネル展

昨年度より3キャンパスで開催しているパネル展は、西宮上ヶ原キャンパスと西宮聖和キャンパスが5月15～19日、神戸三田キャンパスが5月22～26日の日程で実施された。これまでのように「いのちリスペクト。ホワイトトリボン・キャンペーン」や教職員からのキャンパス内の多様性を尊重するメッセージとともに、昨年度のWeb調査の結果を基にしたキャンパス内でのソーシャルアクション(担当部署への改善の働きかけとその成果)を展示した。この内容に関しては、次節で詳細を紹介する。来場者からは以下のようなコメントを頂いた。

様々な人の気持ちが書き出されていて、胸にくるものがありました。セクシュアルマイノリティの人々が大きな声で「本当の自分」をさらけ出しやすい環境、社会を作り上げていくことが今一番大切なことだと感じました。普段、考えもしない「マイノリティ」の人々のことを知ることができました。とても良かったです。ありがとうございました。

先生たちの一言がよかった。力になってくれる人が周りにいるのを知ることだけで、当事者は力を得られると思う。

パネル展で「LGBT」が取り上げられて、学内だけでなく社会の意識が変化していったほしい。その反面、そのような形で「LGBT」が取り上げられているのを「LGBT」の方が見てどう思うだろうか。「やはり、一般の人とは違うからこうやって取り上げられているのかな？」とってしまうかもしれない。社会が多様な性について、もっと受け入れ、できるだけ早くわざわざ「LGBT」について「特別視」しないようになってほしい。

多くの人ってのは「知らない」なのだと思う。こうして「知らない」を解消できる活動に尽力なすっておられる皆様と、それを異なるものみたいに考えて否定しない関学って、素敵だと思っている。

(3) LGBT 関係図書の展示

関学図書館の企画として、このKGRWが始まる以前の5月8日から5月26日まで、西宮上ヶ原キャンパスの図書館1階のミニ特集コーナーにおいて、LGBTQ関連の書籍の展示をしていただいた(写真1参照)。



写真1: KGRW 期間中の図書館での LGBT 関連書籍に関するミニ特集コーナーの様子

(4) 映画上映会

例年通り、今年度も以下のように映画上映会を開催した。

西宮上ヶ原キャンパス：@大学図書館地下1階ホール

5月15日（月）16:50～

「ジェンダー・マリアージュ」（2013年、米）

5月16日（火）16:50～

「ウェディング・バンケット」（1993年、台・米）

5月17日（水）15:10～

「ジェンダー・マリアージュ」（2013年、米）

神戸三田キャンパス：@アカデミックコモンズ1階
コモンズシアター

5月22日（月）16:50～

「ジェンダー・マリアージュ」（2013年、米）

5月23日（火）16:50～

「ウェディング・バンケット」（1993年、台・米）

5月24日（水）16:50～

「ジェンダー・マリアージュ」（2013年、米）

なお、映画を鑑賞した人からは以下のような感想をいただいた。

理解したい！もっと多くの関学生に映画観てほしいです。また来年もきます！

皆が向き合って考えていくべき問題だと思えます。ありのままの自分を受け入れ、理解し合える世の中になればとても嬉しいです。

(5) パネルディスカッション

「当事者の座談会：学生生活とLGBT」

このイベントは、性的マイノリティの現役生たちが企画・実施してくれたものである。現役生3名と、学内の性的マイノリティのサークルを立ち上げた卒業生1名が登壇し、それぞれが関学での学生生活の中で経験したこと、感じたこと、考えたことを話してくれた。

(6) 交流会&ぶっちゃけトークセッション

性的マイノリティの学生たちがお互いにつながる機会を設けるため、今年度も5月18日（木）の18:30より交流会を実施し、約20名の学生が集まった。また、この交流会に先駆けて、5限の時間帯には学生有志が集ってもらい、関学が自分らしくいられるキャンパスになるためにはどうしたらいいのかについて、経験などを踏まえ意見をだしてもらった。そこで集まったものの中には以下のようなものがあり、まだまだ改善に向けて努力していく必要性が高いことがわかる。

レインボーウィークの宣伝というか、説明をもっとしてほしい

授業アンケート等の「男女らん」どんなかるーいやつにもあるので気になります

図書館に多目的トイレをつくる。できれば、B号館などにも

多目的トイレの配置を示したマップを、ネット上で入手できるようにしてほしい

トイレ等の施設の整備も必要ですが、学生・教員の心や意識をマイノリティに向けてほしい

必修などの出席かくにん呼称「～さん」「～くん」とよぶ先生がまだたくさんいます。

ふだんの授業中、先生が「ホモ」とか「オネエ」とか口にすることが多いので、気をつけてほしい

少人数の授業（言語、ゼミなど）で差別などが起きたとの対応をしっかりとしてほしい

LGBTに理解のある教員がわかるようなくみがほしい

(7) 人権問題講演会

昨年度より KGRW 期間中に開催することとなった春季人権問題講演会は、5月18日(木)の2限に神戸三田キャンパスで、4限に西宮上ヶ原キャンパスで、NPO アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク理事の川西寿美子氏に「多様な性を考える～一人ひとりのセクシュアリティ～」と題する講演を行っていただいた。ご自身の体験、ユーモア、生物学の視点を交え、非常にわかりやすく多様な性の在り方やカミングアウトされたときの対応などを含めてお話しいただいた。参加者から以下のような感想をいただいた。

LGBT の知識について詳しくなることができました。また、生物(人間以外)には、男女、二分化社会ではないことが多いことを聞いて、人間はどうして区別したがるのか不思議です。私自身も当事者として共感することや、私と違うなど感じるものがあって、新たな発見もたくさんありました。川西さんが最初におっしゃっていた団体に入りたいと思いました。今日の話聞いて、今まで私の人生でたくさんの人が私のことを支えてくれたんだなと感じました。今度は私が苦しんでいる子たちを支えていきたいです。

身近でありながら難しいテーマについて改めて考える機会になりました。何でも当たり前だと思わないこと、何でも見た目だけで判断しないという意識が大切だと思いました。相手に寄り添い、知ってあげようとする姿勢、この人はどんな人なんだろうと考えること、その歩み寄り一步を踏み出せる人間になりたいと思いました。

「LGBT ALLY」これが私たちに求められること。相手に軽はずみで「お前の気持ちわかるわ～」ということもあるが、当事者だからこそ、当事者でしかわからない感情がある。だから理解ではなく、聞いてあげるという営みを大切にしていきたい。

い。そして 寄り添っていく意識をいかなるときも大事にしていきたい。

(8) 多様な性を祝う集い

5月19日(金)の18:30から20:00には、西宮上ヶ原・聖和キャンパスでのウィークのクロージングイベントとして、また神戸三田キャンパスへのバトンタッチという意味を込めて、「多様な性を祝う集い」をランパス記念礼拝堂で開催した。神学部 の学部生と院生が中心に企画運営し、45名の参加者があった。このイベントでは、学内外からのゲストをお招きし、歌、語り、参加者によるワークなど、さまざまな形を通してセクシュアリティの多様性をともに考える機会がもたれた。

2. 過去2年間の Web 調査の結果を基にしたキャンパス内ソーシャルアクション

2015年度の第3回 KGRW での Web 調査(有効回答数111名、うち性的マイノリティは58名)では、キャンパス内で学生や教職員がセクシュアリティを理由に困難に直面したり、ハラスメントを受けたと感じていることが明らかになった(小林・飯塚・武田・北山, 2016)。そのうえで2016年度の第4回 KGRW での Web 調査(有効回答数:202名、うち性的マイノリティ:79名[うちトランスジェンダー13名]、非当事者:118名 セクシュアリティの無回答:5名)では、実際に誰にとってもいきやすいキャンパスへと関学を改善していくことを目指し、困難やハラスメントの有無だけでなく、具体的にそれらの困難やハラスメントに対してどのような対応をすべきかに関する意見を収集した(飯塚・智原, 2016)。そして、その結果を基に、健康診断、学内相談機関、就職活動、トイレ・更衣室などに関する課題と改善のための提案を、昨年度の KGRW の報告の中でまとめた(武田, 2017)。

2017年度の KGRW では、2016年度の4つの提案に基づき、キャンパス内の各提案に関連する担当部署との話し合いの成果をパネルにまとめて、パネル展で展示した(図1~4参照)。

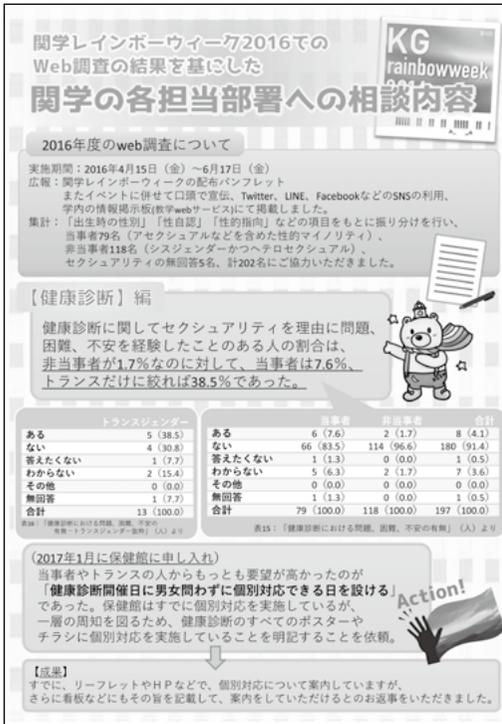


図1：KGRWのWeb調査に基づくソーシャルアクションに関する報告（1/4）

(1) 健康診断

昨年度のWeb調査で、38.5%のトランスジェンダーの学生たちが健康診断に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがあること、また「健康診断開催日に、男女問わずに個別対応できる日を設ける」を求める声が多いことがわかった(図1参照)。しかし、自由記述の中にはトランスジェンダーの学生から「保健館に個別に対応してもらいました」というものもあり、健康診断を実施している学内担当部署の保健館はすでに個別対応を行っていることが確認できた。そこで保健館と協議し、すでに個別対応していることをリーフレットやホームページに加えて、健康診断会場や保健館の看板にも明示し、利用者に広く伝わるように努力していくことを確約していただいた。

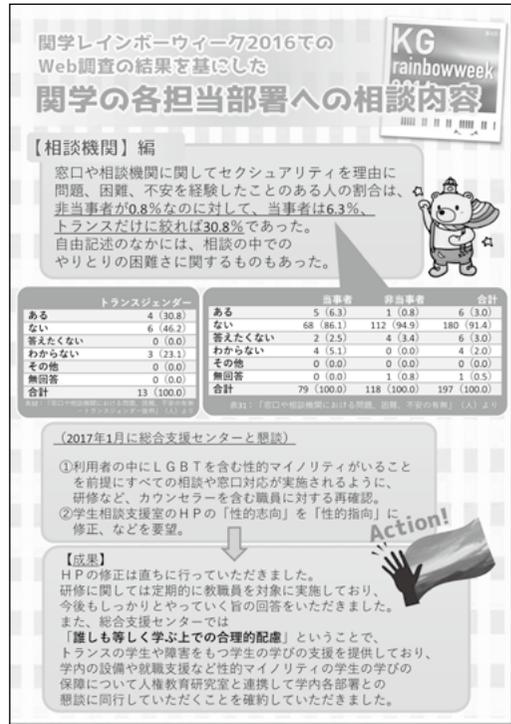


図2：KGRWのWeb調査に基づくソーシャルアクションに関する報告（2/4）

(2) 相談機関

学内の窓口や相談機関においてセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことのある人の割合は、非当事者が0.8%なのに対して、当事者は6.3%、トランスジェンダーだけに絞れば30.8%であった。自由記述のなかには、相談の中でのやりとりの困難さに関するものもあった(図2参照)。しかし、性的マイノリティの学生で、キャンパス自立支援室や学生支援相談室を管轄する総合相談センターを利用したことがある学生の一部から直接話を聞くと、カウンセラーに非常に親身に話を聞いてもらえたという意見もあった。また、学生相談支援室のホームページにはセクシュアリティに関して「性的指向」ではなく「性的志向」という誤った表記がされているということもあり、総合支援センターと協議の場を持ち、ホームページの表記の修正と、職員に対するセクシュアリティの多様性に関する研修を今後しっかりとやっていくこと

を確認するとともに、人権教育研究室と連携して学内の設備や就職支援に関する改善策の懇談を担当部署と行うことを確約してもらった。

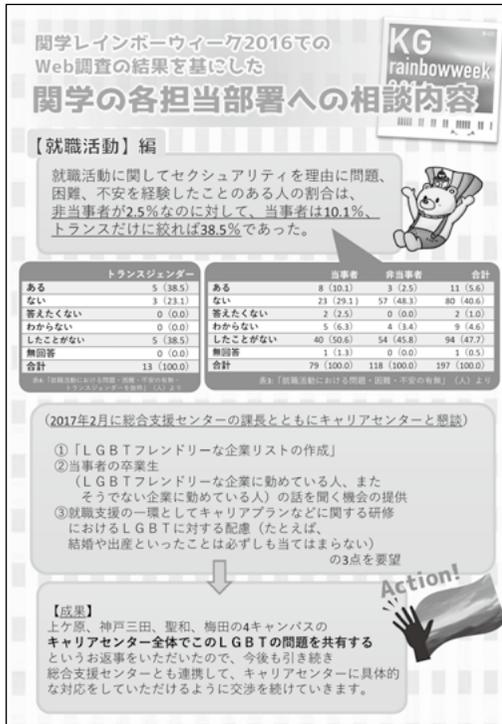


図3：KGRWのWeb調査に基づくソーシャルアクションに関する報告（3/4）

(3) 就職活動

就職活動に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがある人の割合は、非当事者が2.5%なのに対して、当事者は10.1%、トランスジェンダーだけに絞れば38.5%であった（図3参照）。そこで総合支援センターの職員とともに学生の就職活動を担当するキャリアセンターに懇談の機会を持っていただき、「LGBTフレンドリーな企業リストの作成」、「多様なセクシュアリティの卒業生でLGBTフレンドリーな企業で就職している人や、そうでない人の話を聞く機会の提供」、「就職支援の一環としてキャリアプランなどに関する研修における多様なセクシュアリティへの配慮」などを要望した。キャリアセンターからも、上ヶ原、神

戸三田、聖和、梅田の4キャンパスでこの課題を共有するというお返事をいただいた。今後も、引き続き総合支援センターと連携して、キャリアセンターと改善に向けて話し合っていく予定である。

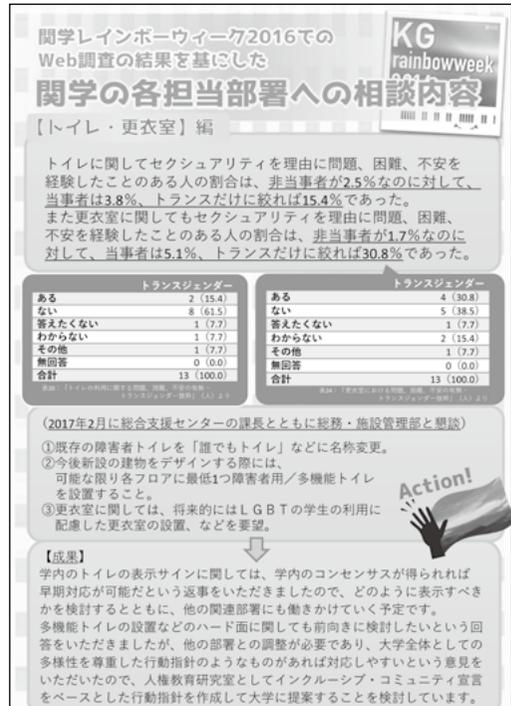


図4：KGRWのWeb調査に基づくソーシャルアクションに関する報告（4/4）

(4) トイレ・更衣室

学内のトイレに関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがある人の割合は、非当事者が2.5%なのに対して、当事者は3.8%、トランスジェンダーだけに絞れば15.4%であった（図4参照）。また更衣室に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがある人の割合は、非当事者が1.7%なのに対して、当事者は5.1%、トランスジェンダーだけに絞れば30.8%であった。こうした状況に鑑み、「障害者トイレの名称変更」、「新設の建物における誰でもトイレの設置」、「セクシュアリティに配慮した更衣室の設置」の要望を、総合支援センターとともに総務・施

設課に申し入れた。総務施設課には前向きに受け入れていただき、学内のトレーニングセンターの障害者トイレが更衣室として使用される可能性が高いことから、総務施設課よりフィッティングボードの設置の提案があり、実施された。トイレの名称変更に関しても、学内でコンセンサスが得られればすぐにでも対応可能という返事を総務施設課からいただいた。ただ、学内のすべての障害者トイレの名称を「誰でもトイレ」と変更することで、障害者が使いたいときに使えないという懸念もあり、現在慎重に検討を進めている。1階にある障害者トイレは現行の名称のままとして、2階以上の階に設置されている障害者トイレの名称を変更することが考えられるが、そもそも2階より上の階に設置されている障害者トイレがほとんどない状態であり、名称の変更だけでなく学生の多様性に対応したトイレの増設が求められる。ただし、トイレの改修や新設には物理的なスペースが必要なことと共に、莫大な予算が必要となり、残念ながら速やかな対応が難しいというのが現状である。

3. これからのKGRWの方向性

KGRWが始まって5年が経過した。もともと人権教育研究室は人権教育科目010「セクシュアリティと人権」を提供したり、毎年の大学主催の人権問題講演会で多様なセクシュアリティの尊重をテーマにすることを提案して開催してきたが、こうした努力にも拘わらず多様なセクシュアリティの尊重が「身近な課題」あるいは「自分自身にかかわる課題」という認識がなかなかキャンパス内に浸透しないことから、このKGRWを実施するようになったのである。この5年間のKGRWの活動の中で、教職員からメッセージ展、多様なセクシュアリティの学生によるパネルディスカッション、映画上映会、講演会、中央芝生におけるオープニングイベントなどを開催し、キャンパスの中のセクシュアリティの多様

性の尊重を啓発することに努めてきた。それは、そうすることによって多様性を尊重するという「風土」をキャンパス内に根付かせることができ、そのことが2014年に制定されたインクルーシブ・コミュニティ宣言ⁱにあるインクルーシブ・コミュニティの構築につながると信じていたからである。

しかし、より多くの関西学院の構成員に多様なセクシュアリティについて啓発することを目的に開始したオープニングイベントなどに関しては、時に一部の性的マイノリティの学生から「お祭り騒ぎにしてほしくない」や「LGBTを搾取している」といった批判の声も上がった。こうした啓発活動に対する限界の声は、在住外国人との共生の分野でも、同様になっている。2010年に開催された外務省、神奈川県、国際移住機関（IOM）主催の「外国人の受入れと社会統合のための国際ワークショップ」テーマ1分科会がまとめた『外国人を受け入れる地域社会の意識啓発に関する提言』の中では、各地で開催される国際交流イベントが「ファッション Fashion・フード Food・フェスティバル Festival」の3Fを中心に意識啓発しているが、一過性のイベントに終わってしまうことも多いと指摘している。そのうえで、3Fにとどまらず、Coexist（共生）、Coordinate（調整）、Cultivate（育成）の3Cに結び付けることが必要だとしている。それらを踏まえ、KGRWでも、啓発活動だけでなく、Web調査を通して把握するキャンパス内の課題や改善案を、実際に大学や学院に対して求めていくソーシャルアクションとしての活動を、次第に目指すようになってきたのである。今後も、啓発活動と並行して、実際にキャンパスの改革を働きかけるソーシャルアクションを続けるべきであろう。

さらに、この5年間の活動に協力してくれた性的マイノリティの学生たちとの振り返りの中で、「セクシュアリティの多様性」に重きを置くイベントのため、活動すること自体が、いわゆるカミングアウト

i 2014年3月6日に発表された「インクルーシブ・コミュニティ構築に向けて」という宣言文には、キャンパスの構成員が、キャンパス内に性別、年齢、国籍、身体的・精神的特徴、セクシュアリティなどの違いがあることを尊び、この「多様性（ダイバーシティ）」こそがコミュニティの強さであると信じます、とされている。

トに近いように受け止められる可能性があるため、当事者の学生が参加しづらいという声も一部から上がった。人権教育研究室はキャンパス内での同和問題に関する教員の差別発言を基に設置され、以降、同和問題、在日コリアン、障害、ジェンダー、多文化共生、そしてセクシュアリティと、人権にまつわるさまざまなテーマを扱い活動してきた。歴史を振り返れば、それぞれの年代でニーズの高いテーマに関して研究会や活動をしてきたのである。そのため、近年は、キャンパス内の性的マイノリティの人権擁護の必要性の高まりに応じて、セクシュアリティの多様性に焦点をあてたKGRWを開催してきた経緯がある。しかし、5年が経過してセクシュアリティの多様性の尊重の啓発に関して一定の成果を上げつつあることに加え、上記のような当事者の学生のこうした声を考慮すると、KGRWの重点をセクシュアリティの多様性のみならず、これまで扱ってきたテーマなどを含めたキャンパス内にあるさまざまな多様性に少しずつシフトしていく段階に入ってきているのかもしれない。もちろん、それは人権教育研究室の本来の目的に合致したものでもあり、実際に冒頭に書いた今年度のKGRWのテーマである「私が私のままでいられる関学へ！ーキャンパスに集う一人ひとりの個性や特性が尊重される関西学院を目指して、できることを一緒に考えよう！ー」を見ても、すでにKGRWがセクシュアリティだけに焦点を当てているわけではないことがわかるであろう。ただ、過去5年間のKGRWのプログラム内容を振り返ってみると、セクシュアリティの多様性をテーマとしたものがほとんどであった。来年度以降のKGRWからは、少しずつセクシュアリティ以外の多様性にも焦点を当てたプログラムを検討することが求められるであろう。

このようにKGRWでは、フェスティバルからソーシャルアクションへとということと、セクシュアリティ中心からより幅広い多様性へと次第に焦点を移していくという2つの方向性に基づいて今後活動していく予定である。そして、こうした方向性に基づく活動の一つの終結点が「関西学院 インクルー

シブ・コミュニティ実現のための行動指針（仮称）」の制定であると考えている。これは、関西学院には2014年に発表された先述のインクルーシブ・コミュニティ宣言があるものの、それは理念的なものであり、この1年間の学内でのソーシャルアクションの過程で、キャンパス内で多様性尊重のための制度や設備の改善の推進力としては不十分だと痛感させられたからである。何を達成すべきかを具体的に提示する行動指針を作成し、学院に認めてもらうことで、学内の各部署とよりスムーズに連携でき、インクルーシブ・コミュニティの実現が促進されると信じている。もちろん、この行動指針は、人権教育研究室が主体となって制定できるものではなく、学長、院長に加え、関西学院のミッション展開推進委員会などの関連委員会や部署と連携しながら実現を目指していく。

参考文献

『外国人を受け入れる地域社会の意識啓発に関する提言』（2010）外務省、神奈川県、国際移住機関（IOM）主催「外国人の受入れと社会統合のための国際ワークショップ」テーマ1分科会。確認年月日：2017年11月20日，from http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/database/pdfs/foreign_teigen.pdf#search=%27EF%BC%93EF%BC%A6+%E5%A4%9A%E6%96%87%E5%8C%96%E5%85%B1%E7%94%9F%27.

飯塚諒・智原あゆみ（2016）『2016年度LGBT調査報告書』

(https://www.kwansei.ac.jp/r_human/news/2017/attached/0000115377.pdf) 関西学院大学人権教育研究室。

小林和香・飯塚諒・武田丈・北山雅博（2016）「関学レインボーウィークが提示するLGBTの在り方」『関西学院大学 人権研究』20, 33-41.

武田丈（2017）「第4回関学レインボーウィークを振り返って：Web調査の結果に基づくキャンパス改善のための提案」『関西学院大学 人権研究』21, 21-26.